

10月号

そつたく 卒業

令和7年10月1日刊行 №.25
編集・発行 大島町教育委員会
教育文化課事務局
Tel 04992-2-1453
題字「井島 吉春」

大島愛

教育長 吉澤 淳

7月1日に教育長を拝命致しました、吉澤でございます。小学校教員として職歴を重ねて参りました。40年間の学校勤務の中で2度、教育行政の仕事をさせていただく機会を得ることができ、今回が3度目の教育行政職となります。これらの経験を活かしつつ、大島の子供たちのため、島の教育力向上に尽力して参ります。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

50年以上前の記憶です。「かとれあ丸」が岡田の港に入港しました。小学校3年生の私は揺れで弾むような足元にぐっと力を入れ、懸命に外の風景を凝視しました。デッキの白く塗られたひさし部分と湿った床面とにふちどられた横長の広くはない視界いっぱいにとらえられたのは朝陽のまだ届かない薄闇に浮かぶ黒々としてみずみずしい緑の塊でした。固唾を飲むほどの生命力にあふれた塊でした…これが大島初見の印象で、その時の心の動きが今日までの長い時間、私を島に結び付けることになりました。

私の祖父は関西の生まれで、仕事のために波浮にやってきました。そこで波浮育ちの祖母と出会い、一家を構えました。父の兄弟は皆、波浮の生まれです。戦争とその後の混乱の中、一家は、生活の場を東京に求めました。そこで生まれたのが私です。この国の高度成長時代の生活は、街中に土を掘り、コンクリートを突き固める騒音と土煙の中でのものでした。より高く、より大きくという見えない目標のもと街は日々変わっていきました。その中で毎夏の「大島通い」が始まりました。島への憧れ、大島の人々と繋がっているという感覚=「大島愛」が街暮らしの中で私の中に少しづつ大きく、確かなものになっていきました。

さて、学校をはじめとする教育に関するすべての機関の役割は、すべての子供たちに、郷土大島の良さや独自性を探求する動機に繋がる素材を提示し、学習意欲を掻き立てることから始まり、その探求が望む目標に迫るように意図的、計画的な軌道修正をしながら学習の推移を見守り、その学習成果を広く発信できる場を整えることです。小学校に入学した子供たちは、町探検に出掛けて行きます。自らの足で地域の様々な事象と出会い、驚きと共に奥深い学習を進めていくためのきっかけをつかんできます。学年が進むにしたがって、カリキュラム・マネジメントによる教科横断的な学習展開を充実することで、中学校段階では、町づくりの活性化への取組やそれに関わる人々の思いや願い、大島と自分自身との関わり、島が現在直面している課題とどう立ち向かい、解決のためにどんな工夫をしているか等、課題解決に必要な資質や能力を身に付けていきます。

「大島町が目指す子供像・平成28年」の一つに「郷土大島を誇りとする人を目指す～愛する郷土大島の価値ある一員となるべく、進んで自己を鍛えます～」とあります。脈々と歴史と伝統を受け継いできた大島。このことを未来へ、新しい人材を育成することで持続していくことが私たちの使命です。その中核となるものは、やはり「大島愛」に他なりません。

秋・地域・スポーツ

教育長職務代理 山田三正

スポーツの秋。9月のスポーツフェスティバルに小中学生100名以上の参加で盛り上りました。野球・サッカーバドミントンそしてライフキネティックの4種目に取り組みました。島外の指導者の協力を得て、保護者と各校部活指導者、島内各団体指導者の方々と一緒に活動しました。

この夏までに島の児童生徒の活躍が届いてます。海洋国際高校のカッターパークの国体出場、大島高校バレーパークのインター杯予選ベスト32等など、中学校では中体連野球部都大会ベスト8等など、小学生各種目の島外での活躍が届きました。成績結果を等などと書きましたが、沢山の活動結果を聞いてます。大島の誇りと心意気を胸に頑張ったと思います。ちなみに大島出身の大学生や社会人の日本や世界を相手にした活躍も紹介されています。スポーツだけ記載しましたが「文化面」での活躍も多々ありました。言わずもがなですが、児童生徒の活動・努力の賜物です。遠征結果もですが、運動・文化すべての子どもと部員の日々の活動を思います。日々の練習努力を観て、元気づけられます。やろうという気持ち。取り組む姿。技術だけでなく仲間とともに力を持ち進む。その姿が尊く、応援しています。そして、それを支えてくれる指導の先生方、学校外・地域の活動の指導者の方々と保護者の活動に感謝しています。

さて、団体スポーツについて述べたのは、オール大島でないとチームが組めない現状です。これまで以上に学校・地区を超えた活動の取り組みが余儀なくされています。

児童生徒の頑張りを観て、一層思いました。選手の数もですし、指導者についても学校と地域が連携して取り組む仕組みを作っていくことが必要だと。

家庭・地域・学校とともに子どもを育みます。

地域によって立つ学校。地域で育つ。地域で育てる。大島で育てる。人と場。子どもの元気は島の元気。運動・文化面における子どもを育む環境が一層充実し、子どもの思いが小中そして高校まで含めて繋げられるような、島っ子の環境が作れるといいなと思います。

慎桑亀

委員 井島吉春

SNSの発達により自分の言いたいこと、主張したいことを簡単にしかも匿名で発することができるようになった。中にはかなり乱暴な内容もあり多くの問題を生み出している。

自分の意見をしっかり持ち他者に伝えることは社会生活の中で大切なことだが、相手の気持ちも考えずに、一方的に発し続けるのは暴力行為になってしまう場合がある。

当寺の本堂の左奥に、大本山の禅師が揮毫された扁額が掛けてあり、そこには「慎桑亀」と書かれている。かなり昔に書かれたもので、当時禅師はこの禅語を好んで書いたらしく、全国の禅寺でもたまに見かけることがある。中国の古事記の語で、大まかな内容は、ある樵夫（きこり）が山に登って、大きな亀を見つけた。生け捕りにして、山の麓の川に用意してあった船の中に持ち込み、その船を川岸の大きな桑の木につないだ。そして一夜、そこで明かすことになったが、夜半になると、桑の木と亀が問答を始めた。桑が亀に向かって「お前はもうすぐ王様に献上され焼き殺されるぞ」と。亀は「なに、

大丈夫だ、自分は堅固な甲羅があるからどんな大火の中に入れられても決して焼き殺される事はない。」と言う。

桑は「でも、この桑の木を薪として火をつければ、さすがのお前も焼き殺されるぞ」などと両者決着のつかない話を一晩中言い合っていた。後日、その亀は本当に王様に献上され、くくりつけられていた桑の木も切り倒され、その薪で焼かれてしまった。

古来からつづく亀を焼いて、甲羅に浮かぶ模様を見て、吉凶を判断する儀式に使われてしまつたのだ。結局あれこれ言い合っていたら、桑の木も伐って燃やされ、亀も焼かれお互い天寿を全うできなかつたと言う話である。

「慎桑亀」とは口を慎めと言う戒めの語である。誰がつつしむのか、それはすべての人々が考えるべきことであろう。

「今の若者は…」

委員 山本 忠夫

今年の夏も甲子園で高校野球が行われました。スポーツ好きの私としては今年はどんなドラマがあるのか、本当に楽しみでした。

その中で、ある高校が1回戦勝ち上がった後に出場辞退をするということがありました。これは連日色々なニュースに取り上げられ賛否両論もあることだと思いますが、当事者の高校生の心中を思うとすごく複雑な気持ちになりました。悪いことを「もし」していたのなら、それは反省をしなければならない。でも、それが大人の関わりによって左右されるものなら、大人もしっかりと反省しなければならない、と思いました。

実は最近、上京した際に電車で、体の不自由な方に席を譲る若者を多く見かけます。優しい笑顔で温かい言葉遣い、それが本当にさりげない態度で、今の若者は素晴らしい、と心から思うようになりました。今の若者は、昔に比べると多様性で選択肢も増え自由度も増した、と言われます。今の子は自由だから…と思われるがちですが、昔は、電車やバスの中でもタバコが吸えたり、吸い殻の投げ捨てがあつたり、電車の椅子の下が弁当などのゴミ置き場だったり、昔は今よりも自由?だった気がします。昔に比べれば間違いなく今の方が社会が綺麗になり住みやすくなつた。それだけ子供たちにも教育が行き届き、みんなが社会のために貢献してくれている、今の若者も素晴らしい、という見方もできるのではないか?

そのような現代において、スポーツだって子供たちに良い影響を与えるツールだと私は思っています。非認知能力（数値で測れない心や社会性・やる気、協調性、忍耐力など）を高めることもそう。スポーツマンシップ（尊重）の心も、善き敗者（good loser・負けた時、相手の勝利に敬意を払うなどの清々しい態度）の心もそう。うまくなる、強くなる過程には我慢したり出来ないことに挑戦することがセットになっていて、それを行動に移し克服することで成績が向上し人間的に成長することができる。そして、スポーツの面白さは勝ち負けだけではありません。あの子がこんなに人に喜んでもらえる子になった…。が一番うれしい。

この歳まで生きてくると、社会は理不尽や不条理な面も多々あることを実感します。その中で、自分はどうありたいか、が問われます。時にスポーツの闇の部分が表出してきることもありますが、多くのスポーツ選手が社会で喜んでもらえる活動をしています。スポーツの持っている利点を理解し、人が嫌な気持ちになるような愚かな行動がなくなっていくことを心から願っています。

※**啐啄（そったく）**とは
鳥の卵が孵化しようとするとき、殻の中で雛鳥が外に出ようとして内からコツコツと殻をたたく音を「啐」といい、母鳥がその孵化の瞬間を悟り、殻の外をコツコツ突き破ることを「啄」といいます。この啐と啄の呼吸が合うとうまく殻が割れ、丈夫な雛が誕生しますが、どちらか早すぎても遅すぎてもよい雛は生まれません。教育も教わる側の生徒と教える側の先生が、啐・啄同時で、あることが理想であり、依って大島町教育委員会便りを『啐啄』と名付けました。

教育委員会カレンダー

月	日	内 容	場 所
10	4	運動会	一中、さくら・二中、つつじ・三中
10	12	大島町体育祭 体育レクリエーション大会	大島全域
10	26	大島町体育祭 駅伝競走大会	大島全域
12	9	大島町立小中学校連合音楽会	開発総合センター2階大集会室
	26	雪国体験学習（12月29日まで予定）	新潟県上越市大島区（予定）
1	10	二十歳を祝う会	開発総合センター2階大集会室
	16	大島町立小中学校連合作品展(20日まで予定)	未定
1	31	大島町体育祭 野球大会（小学生の部）	差木地地域センターグラウンド
2	中旬	大島町文化祭 芸能大会	開発総合センター2階大集会室
3	上旬	大島町文化祭 作品展	開発総合センター

【大島町教育相談室のご案内】

大島町教育相談室は、教育相談員・指導員・社会福祉総合相談担当の5名体制で、子ども達や保護者、教職員のための相談対応、支援を行っています。

教育相談事業

不登校・いじめ・発達の遅れ・学業不振・非行など、子ども（小・中学生）のあらゆる教育相談について、本人や保護者及び学校関係者のご相談をお受けします。

適応指導教室「パレット」

さまざまな理由で学校に行きにくかったり、教室に入れなくなったり、登校できないでいる小・中学生のための居場所です。一人一人に応じた体験活動や学習活動を行い、学校復帰や進路の実現に向けて支援をしていきます。

困ったり、悩んでしまった時は、迷わず（2-4544へ）直通電話へ連絡ください

【連絡先】大島町元町字丸塚 548番1 大島町生涯学習センター・郷内（2階）

電話：2-4544 メールアドレス：kyouikusoudan@citrus.ocn.ne.jp

※なお、来室される方は、教育相談員が学校訪問するなど不在の場合がありますので、事前にお電話にて確認のうえお出掛け下さい。